

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年8月
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	政治経済学部
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2024年8月17日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ
留学先大学	カリフォルニア大学バークレー校 (日本語名) University of California, Berkeley (現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語 韓国語/英語
留学期間	2024年5月～2024年8月
留学先大学で在籍した学年	2年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1学期: 4月上旬～7月下旬 2学期: 9月中旬～2月上旬	1学期: ~ 2学期: ~ 3学期: ~ 4学期: ~
学生数	45,057人
創立年	1868年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (USD)	日本円	備考
授業料	6,847	円	
宿舍費	7,565	円	
食費	200	円	
図書費	48	円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	200	円	
現地交通費		円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		円	形態:
渡航旅費		115,831 円	
ビザ申請費	535	81,855 円	
雑費	1,500	円	
その他		円	
その他		円	
合計		2,651,631 円	



## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: 留学している友達や現地の大学生)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

UC Berkeley WarnMe

というメールから学校の周辺で事件が起きた場合にメールがほぼ毎日、メールが来ました。また、発泡事件が起きた際には、I house のメールからも注意のメールがありました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学のWIFIが2つあり、berkeleyのwifi接続が良くない時にはeduroamというもう一つのwifiを使用していました。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードをメインで使いました。友達と食事した際に割り勘する必要がある時には現金を使用しました。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

パーカーは6,7月でも夜になると12,13度になるので、長袖を2,3着持っていくことをお勧めします。また、日本のお菓子はSFのJapan townやダイソーなどで購入できますがインスタントの日本食(カップラーメン以外)はあまり売っていないため、日本から多めに持って行ったほうが良いかと思います。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

どちらもクレジットカードを使用し2月授業料を支払い、3月に寮費を払いました。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
10 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Business and sustainability	ビジネスとサステナビリティ
科目設置学部・研究科	haas
履修期間	session A
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 150 分が 2 回
担当教授	omar Romero, Sergio Romero 教授
授業内容	汚染問題や公害など広範にわたる環境問題、気候変動によるエネルギー問題、SDGs を中心とした人権問題とビジネスの関係から、企業で Sustainability をどのように推進していくかを学びました。回ごとにトピックが異なっていたため、環境問題とそれに関連する社会問題を包括的に扱う授業です。具体的には、Sustainability 計画のフレームワーク、ステークホルダーとの調整、社内の人々への説得方法などをシミュレーションを通じて理解を深めました。また、実際に Sustainability を推進する企業の方々と Zoom で繋ぎ、お話を伺う機会もありました。
試験・課題等	小レポート、シミュレーション課題、プレゼンテーションがそれぞれ1回と期末テスト
感想を自由記入	昨年この授業を履修した先輩の留学報告書には、テスラの工場見学があったと記載されていましたが、今年実施されませんでした。参加者は私を含めて 6~8 人と少人数であり、最初からグループができていたため、ダイバーシティに富んだ議論があまりできなかった印象です。また、内容が同時期に履修した「Business Models for Sustainability」と重複していたため、全体的には大満足とは言い難いです。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Business models for sustainability	サステナビリティのためのビジネスモデル
科目設置学部・研究科	haas
履修期間	session A
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に360分が1回
担当教授	Andrew Isaacs 教授
授業内容	この授業では、前半で気候変動の科学的な基礎知識を学び、後半で気候変動に対応する企業の評価を行いました。前半では、気候変動前と現在の状況を比較し、その要因を科学的な態度で見ました。後半では、脱炭素化やネットゼロの取り組みを進める企業の評価、グリーンウォッシングの実例、代替エネルギーの批評などを通じ、第三者視点からの企業分析を行いました。これにより、企業の気候変動対策が本当に有効な手段であるのか、あるいは単なる欺瞞であるのかを、実際のデータに基づいて検証しました。
試験・課題等	毎週レポート(1課題 500~1000字程度) 期末レポート(4000字)
感想を自由記入	この授業は気候変動に特化した Sustainability とビジネスの関係を学ぶもので、課題も非常に実践的で、Summer Sessions の中で最も面白く、将来に活かせる内容でした。4つの授業の中で最も現地のバークレー生が多く、彼らからの質問は鋭く、学生のレベルの高さを実感しました。教授は日本への出張経験があり、日本企業にも精通しているため授業内で日本について触れる機会も多かったと思います。また、オフィスアワーを何度か利用しましたが、毎回丁寧に分かりやすい回答をいただき日本語での会話も行ってくれるなど、とても親切な教授でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Consumer society and Culture	消費社会と文化
科目設置学部・研究科	ISF
履修期間	Session D
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が4回
担当教授	Fang Xu
授業内容	この授業では、消費行動を通じたアイデンティティの確立、消費社会の変化、中国における消費、環境問題と消費活動など、毎週異なる細分化されたテーマから、消費という大きな概念を多角的な視点から分析しました。週2回の講義でrequired readingsの解説を行い、週1回の授業でそのテーマに沿った学生主導のディスカッションやプレゼンテーションが行われました。
試験・課題等	期末テストなし。 毎週の小レポート(250字)とリーディング課題、消費行動の観察レポート、waste diary and report
感想を自由記入	教授が中国系アメリカ人であったことや授業内で中国に関する消費について学ぶ機会が多かったため、中国人留学生が多い印象を受けました。ですが、それと同じくらい現地のパークレー生も多く参加していました。日本人は私一人だけで、ディスカッションについていくのに苦労しましたが、その分大きな成長を感じられた授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Food for thought	考える材料
科目設置学部・研究科	
履修期間	Session E
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に140分が6回
担当教授	Peter Vahle 講師
授業内容	アメリカの食文化を題材に英語を鍛えることに重きを置いた授業でした。リーディングや映像クリップ、フィールドワークやプレゼンテーション、ディスカッションなど様々なアプローチを通じてアメリカの多様な食文化について学びました。アメリカの食文化とは多様な人種と結びついたもので食文化の融合がいかに生まれたのか、など歴史背景についても理解を深められます。
試験・課題等	final presentation
感想を自由記入	英語力強化に力を入れた授業であったため、1 unit 足りずに受けた現地の学生や1人のヨーロッパからの学生を除き、受講者のほとんどが中国人、日本人、韓国人の留学生でした。そのため、語学学校の授業に似た雰囲気がありました。アメリカの食文化に関する内容は興味深かったものの、グループワークが比較的簡単であったため、英語力を鍛えるという点ではそれほど成長を感じることができませんでした。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

企業の気候変動対策のコンサルティング業界に興味を持っています。Business Models for Sustainability の授業内容が自身の関心と合致したため、その学びを活かせる業種を探していたところ、この業界に辿り着きました。帰国後は同業界のインターンシップへの参加を検討しています。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	TOEIC 700点 取得
	8月～9月	トップユニバーシティ留学の出願
	10月～12月	協定留学の合否発表。スピーキング力を鍛えるためオンライン英会話の活用、Meet up のイベント参加を開始
留学開始年	1月～3月	期末試験終了後、オンライン英会話の活用と Meet up のイベント参加を継続
	4月～7月	英語力強化と海外生活体験のため、オーストラリアに1週間滞在。 5月中旬帰国、留学開始
	8月～9月	帰国後、インターンシップの応募開始。
	10月～12月	休学しインターン参加 or 秋学期の授業開始
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

将来の進路に非常に大きな影響を及ぼし、交友関係においてもこれからも仲良くしてくれる友人に恵まれたので、留学を決めてよかったと心から思っています。

留学先としてバークレーを選んだ理由は環境問題をいかに持続可能な(金銭的利益を生む)方法で解決できるのかを学び、自分自身の将来に活かすためでした。履修登録前から Business Models for Sustainability を担当する、Andrew Isaacs 教授を知っており、この教授の元で学びたいと強く思っていました。

実際に受講し教授とお話する中で自身の関心が気候変動対策のコンサルティング業務に合っているのではないかと感じ、その学びを実社会に活かしたいと考え、現在、その業界でのインターンシップを検討しています。バークレーのサマーセッションは、明治での専攻とは異なるものでも 1,000 近いコースの中から自身の関心に合った授業を自由に選択し、優秀な学生たちと学べる貴重な機会だと思います。

自身の関心テーマをさらに探求したいと思うまで留学に関心がなかったことから、特にスピーキング力が皆無でした。(speaking IELTS 4.5 くらいだったと思います。)11 月頃に明治から協定留学の合否が出てから必死になって英語力を鍛えたため、留学前や留学中でさえ英語に対する不安は大きかったです。現地での授業も面白く、交友関係も恵まれたため不安は払拭されました。現在は留学を決めて良かったと心から思っています。

一度決心してやると決めて行動することで、不安は徐々に無くなっていくと思います。英語を話すことへの恐怖は meet up を通して国内でのイベントへの参加やオンライン英会話などを活用したことで薄れていきました。留学前の過程で、国内で出会った海外の人も留学先で出会った友人と同じくらい大切な友人になっています。バークレーでの留学は 3 ヶ月と短いと思いますが、非常に濃い 3 ヶ月であり、また留学前に留学を決めたことで出会えた友人も多く、留学後もバークレーでの経験が生きています。